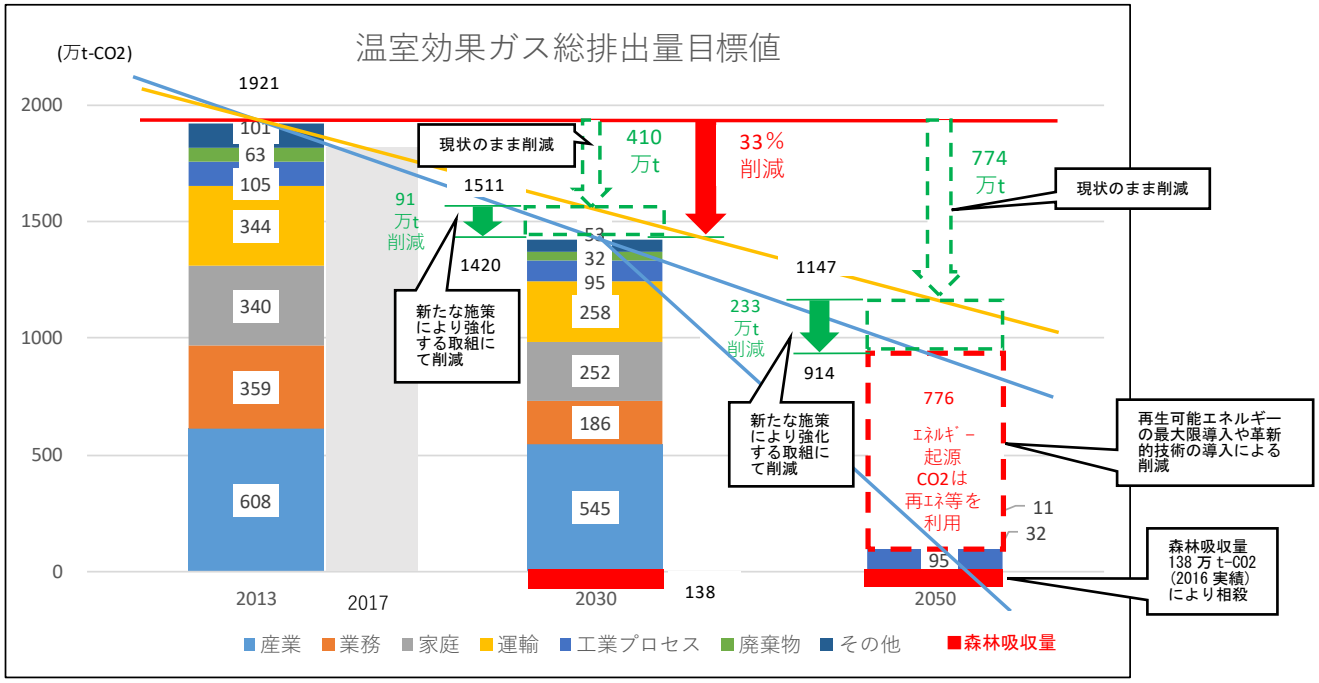
（参考）

〇2050 年度温室効果ガス排出量実質ゼロの実現可能性を検討

・2050 年度には現在の削減傾向で排出量が削減されたうえで、新たな施策を追加して削減していく場合



※　上記グラフは、大まかな傾向を見て再生可能エネルギーの導入や施策の検討などに使用するために 2013 年度実績及び 2017 年度実績などをもとに簡易的に試算したものであり、今後の状況に応じて見直しを行います。

試算のまとめ

・2050 年度に温室効果ガスを 2013 年度比で少なくとも 1,007(万 t-CO2)削減し、不確実性の高い再生可能エネルギーを最大限導入、革新的技術の社会実装ができれば、温室効果ガス排出実質ゼロにできる試算ができた。

・2030 年度に温室効果ガスを 2013 年度比で少なくとも 501(万 t-CO2)(26%削減）削減（森林吸収量 138(万 t-CO2) を加味して 33%削減）すれば、温室効果ガス排出実質ゼロにできる試算ができた。

・なお、省エネの徹底によりエネルギー消費量を 6 割削減することにより、革新的技術といった不確実性のある因子を除いた場合でも、温室効果ガス排出実質ゼロに近づくことができる。